

富士市中小企業景況調査結果

令和3年度 第3四半期【令和3年10月～12月】

令和4年1月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、201事業所(回収率68.7%)を対象に、「令和3年10月～12月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和3年7月～9月 今期…令和3年10月～12月 来期…令和4年1月～3月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き		↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)	来期予測
業況	▲35.8	↗	▲24.7 (▲44.9)	↗ ▲14.6
売上	▲26.3	↗	▲13.0 (▲42.8)	↗ ▲6.7
採算	▲40.0	↗	▲25.4 (▲42.5)	→ ▲22.0

今期調査では、全産業合計の業況DIが11.1ポイント、売上DIが13.3ポイント、採算DIが14.6ポイントの改善となった。来期の予測について業況DIと売上DIは改善、採算DIは横ばいの見込みとなった。業種別の来期業況DIは、製造業・卸売業・小売業は上昇、サービス業は横ばい、建設業は下降を予測。売上高DIは、小売業・サービス業は上昇、製造業・建設業は横ばい、卸売業は下降を予測。採算DIは、製造業・小売業は上昇、卸売業・サービス業は横ばい、建設業は下降を予測となった。

全体を通して、売上の回復傾向はあるものの、オミクロン株や第6波を不安視する声が多かった。また、ウッドショックや半導体不足については改善にはまだ大分時間を要するであろうというコメントが多かった。

経営上の問題点では、卸売業・小売業・サービス業において「売上減に伴う利益減」、建設業においては「人材不足」、製造業において「商品、原材料仕入れ価格の上昇」がそれぞれ1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業、卸売業、サービス業は上昇。建設業、小売業は横ばい。

製造業、卸売業、小売業は上昇。サービス業は横ばい。建設業は下降。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲34.3	↗	▲23.5 (▲54.5)	↗	▲8.8
建設業	▲24.2	→	▲24.2 (▲19.4)	↘	▲31.0
卸売業	▲18.2	↗	▲12.0 (▲54.2)	↗	0.0
小売業	▲52.4	→	▲47.6 (▲43.5)	↗	▲14.3
サービス業	▲51.9	↗	▲20.7 (▲55.6)	→	▲17.8
全産業	▲35.8	↗	▲24.7 (▲44.9)	↗	▲14.6

〔売上高のDI〕 製造業、卸売業、小売業、サービス業は上昇。建設業は下降。

小売業、サービス業は上昇。製造業、建設業は横ばい。卸売業は下降。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲40.0	↗	▲17.6 (▲55.8)	→	▲14.8
建設業	▲17.3	↘	▲24.1 (▲16.1)	→	▲21.4
卸売業	0.0	↗	12.0 (▲50.0)	↘	4.0
小売業	▲45.0	↗	▲38.1 (▲45.4)	↗	▲4.7
サービス業	▲25.9	↗	0.0 (▲48.2)	↗	7.4
全産業	▲26.3	↗	▲13.0 (▲42.8)	↗	▲6.7

〔採算のDI〕 建設業、卸売業、小売業、サービス業は上昇。製造業は下降。

製造業、小売業は上昇。卸売業、サービス業は横ばい。建設業は下降。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲42.8	→	▲47.0 (▲52.9)	↗	▲26.4
建設業	▲37.9	↗	▲27.6 (▲22.6)	↘	▲37.9
卸売業	▲22.7	↗	▲8.0 (▲33.4)	→	▲12.0
小売業	▲52.4	↗	▲33.4 (▲47.8)	↗	▲23.8
サービス業	▲42.9	↗	▲6.9 (▲55.6)	→	▲7.4
全産業	▲40.0	↗	▲25.4 (▲42.5)	→	▲22.0

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【低調】

『製紙』…総じてコロナによる紙需要の大幅減少を不安視する声が多かった。「業務用製品（家庭紙）の出荷は低調で苦戦。一般市販品の出荷も鈍い。人口減少、インバウンド需要の消滅もあり、消費量が伸び悩んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「これから人の流れも多くなり業務用製品（家庭紙）の動きも良くなると思っていたが、オミクロン株で人流が再び止まりそうである」「当面は期待できないだろう」とのコメントが寄せられた。

『紙加工』…総じてコロナによる受注減少を不安視する声が多かった。「5月以降、前年同月の売上を上回っている状況は続いている。しかし包装用紙等の需要は、コロナ禍が若干落ち着いた秋以降も急激な回復は見通せない」「長期的には売上は減少傾向であり、オミクロン株の影響で、今後も売上増加には転じにくいと思われる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「新型コロナの影響が続いており、まだ以前とは程遠い状況である」「原油価格高騰による副資材の値上げが目白押しであり、予断を許さない現況だ」「多少の回復は見られるが、オミクロン株で見通しは悪い」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて半導体不足や自動車の減産を不安視する声が多かった。「自動車部品については、メーカーの生産調整が解除されたが、部品メーカーの在庫状況により受注量は低調である」「工作機械部品については順調に推移しているが、半導体不足で組み立てが遅れ気味な状況である」「工作機械関連は復調の兆しがあるが、成形機及び自動車関連の落ち込みが酷い」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…総じて部品調達の遅れ、自動車の減産を不安視する声が多かった。「自動車関連のみならず、製造業は全てにおいて減産傾向にある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「明るい兆しは見え、企業間格差は広がっていく」「自動車関係ではトヨタの一人勝ちの状況である」とのコメントが寄せられた。

『金属製品』…総じて部品調達の遅れ、自動車の減産を不安視する声が多かった。「鋼材の値上がりはずっと続いている。見積書の有効期限を短くしているが、即決案件ばかりではないため悩ましい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「材料が品薄になってきている状況。棚上げになっていたと思われる案件が、ここに来て続けて動き出し、来年3月迄は忙しくなるだろう」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…総じてコロナの影響を冷静に捉えている声が多かった。「ワクチン接種が進み落ち着きはじめて矢先にオミクロン株が出来た為、今後どのような影響が出てくるかが全く分からない」「9月頃から半導体不足によりトラックの減産が始り、予定が後退し、3月頃までは減産が続く」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「中国の冬季オリンピック需要により、生産量が好調な状況が続いている」「オリンピック需要が落ち着いた後にどのようになるかは予想がつかない」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…総じて材料不足等による生産遅延を不安視する声が多かった。「新疆ウイグル自治区強制労働問題の影響により、材料（綿原糸）の価格上昇等が発生し、生産が大幅に遅れている」「昨年は新型コロナの影響で大規模な在庫調整があったその反動があり、現在受注は一時的に好転している」「コロナ禍によりアパレル資材の受注環境が悪化した為、需要が減少した」とのコメントは様々である。今後の見通しについては「綿原糸等の価格上昇とオミクロンによる影響が今後の懸念材料。コロナの無利息融資が終わる事を踏まえ、資金繰りの見直しも今後の課題」「多少の需要回復は見込まれるが、コロナ前に戻るのは厳しいであろう」とのコメントが寄せられた。

『印刷資材・印刷関連』…総じてコロナによる長期の需要低迷を不安視する声が多かった。「全く良い話を全く聞かない」「コロナでペーパーレス化が加速し、その影響をどれだけ受けるのかを見極めないとこの先の見通しは分からない」とのコメントが寄せられた。

『食品』…総じて各商品の値上げに悩む声が多かった。「供給過多の傾向」「原材料高騰の状況下において、販売価格に転嫁せざるを得ないにも関わらず、業界全体で値上げに踏み切っていない」「コロナの影響は続き、需要が低迷している。安い商品だけが引き続き好調。海外からの原料調達に遅れが出ており、相場が上がっている」「新型コロナウイルスの影響で原料の価格が高騰し、値上げ対象が拡大している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「年明けから、商品の値上げ交渉および原材料仕入先の見直しを積極的におこなう」「新型コロナウイルス影響により見通しが立たないが、原料価格の高騰に伴い値上げを検討することになると思われる」とのコメントが寄せられた。

『飲料』…「富士のほうじ茶について、飲食店や企業とのコラボが少しずつ広まり始めている。富士市全体で富士のほうじ茶を広めてほしい」「飲食店や企業向けに富士のほうじ茶のPR、コラボ等を会議所からも勧めてほしい」とのコメントがあった。

『機械器具』…「需要自体がやや減少しており、売上は減少傾向である」今後の見通しについては「海外部品の遅れによる生産減。売上低迷はしばらく続く」とのコメントが寄せられた。

『建具』…「住宅がユニットドアなどの既製品で済まされる事が多く、オーダーで作る建築現場は非常に少ない」「景気の好転はまだ大分先であろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「求人を出しているが、応募がなく雇用確保が不安である」「人材・人手不足がより深刻化してくる。一民間企業では対応が難しい為、法整備含め制度の見直しを求めたい」「大手製紙メーカーは、ペーパーレス化、デジタル化で印刷用紙製造を止めて、家庭紙製造に参入してきている。需要と供給のバランスが崩れ値下げ競争にならないかと危惧している。地元のメーカーは各社特徴のある製品作りを考え、対抗していかなければならない」との意見が寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	20.6	35.3	44.1	▲23.5	上 昇
売上高	26.5	29.4	44.1	▲17.6	横ばい
採 算	5.9	41.2	52.9	▲47.0	上 昇

【建設業】 景気ムード…【厳しい状況】

『総合建設』…総じて各コストの上昇、大手の地方進出による競争激化を危惧する声が多かった。「官公庁（国、県、市）の発注は順調であるが、受注者側の技術者不足等もあり、不調案件が発生している」「民間の設備投資は依然として厳しい状況だ」「仕入価格が上昇しているため、昨年度と同一規模の計画に対しては、同じ価格での提供が出来ない」「大手企業による地方の公共工事や民間工事への進出が増加した事により、地元中小企業が圧迫されている」「完成工事高は昨年と比べ減少」「官公庁工事減少し、民間工事は激変している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ウッドショック、燃料高騰による原材料価格の上昇に加え、オミクロン株等による経済への悪い影響が危惧される」「2022年度末まで厳しい状況が続くのではと危惧している」「大手を含めた少ない工事案件の受注競争の激化」「受注高は後半期から増加傾向が見受けられ、完成工事高は増加する」「建設業界は製造業の設備投資の鈍化による受注案件の減少が予想される」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…総じて木材をはじめとする各種材料の値上げを不安視する声が多かった。今後の見通しについて「グリーンポイントが終了したため、今後は住宅の新規着工及び販売が減少する見込み」「材料の価格が上がりそうで大変不安である」とのコメントがあった。

『建設関連』…総じて部品不足や仕入れ値高騰を不安視する声が多かった。「材料の不足(母材、ボルト)の数が少なく手に入りにくい為、どこも困っている」「生産・販売ともに減少。需要と生産・販売は連動しているため、弊社は生産調整を行う」今後については「仕事量と見積りの数は増えているので、あとは単価が上がってくればこの先明るくなると思われる」「原材料、商品仕入れ価格の上昇に伴い販売価格の値上げを考えている。来年4月以降を目安としている。値上げが実行できないと事業存続が難しくなる」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』…「円安による影響が気がりである」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「民間の庭木の手入れが12月にかけて多く忙しい」「造園工事は前期同様に発注件数が少ない。通常の管理以外に雑木伐採及び草刈等の管理が増加している」今後については「公共工事の発注を期待したい」「県東部地区でナラ枯れの発注が多く、伐採が必要とされるが、高所作業所等の車両が入らないところでの伐採があり、ツリークライミング等ロープによる伐採も増えてくるだろう」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…総じて厳しい状況が続いているとの声が多い。「ますます過当競争になってきている」「コロナ明けでも不透明感が強く先が見えない」「オミクロン株、石油値上げが不安だ」「コロナ禍に伴わない売上減。工場等の設備投資減に伴う受注減」「人員不足、人材不足による競争力の低下で厳しい」とのコメントが寄せられた。「日本国内のみならず、世界経済がどのようになるのか先が読めない」「新型コロナウイルスの蔓延状況を引き続き注視していく」「少しずつ工事案件が出て来たが、まだまだ厳しい状況が続くであろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「全体をならせば従来と同じ位にはなると思う。お茶と農業の体験型フードパーク「KADODE」(島田市)のような施設があるといいと思う。西富士道路が大淵や厚原から入れるようになると遠回りしなくて良い」「コロナが終息しなければ、どうにもならない」「雇用の継続確保が難しい。人件費、負担割合(社会保障費)が重い」「新規の投資計画はある程度聞こえてくるが、話だけで終わるケースが多い」「幅広い業種との取引があるが、やはり新型コロナウイルスの影響を受けた(受けている)業種は、設備投資の先送りや計画の見直し、中止も発生している」「工場等の設備投資の減少は続きそうである」「市内への進出企業からの問合せはあるが、開発可能な土地がない状況である」「富士見台団地では、既存の戸数が減っているのに新しい建売分譲住宅が増えている」「3K職種(きつい、汚い、危険と言われる肉体的にハードな職種)による慢性的な人員不足である。この職種においては、外国人留学生等では不安である」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	3.4	69.0	27.6	▲24.2	下降
売上高	13.8	48.3	37.9	▲24.1	横ばい
採算	13.8	44.8	41.4	▲27.6	下降

【卸売業】 景気ムード…【低調】

『機械器具』…総じて仕入れ値高騰と部品不足による納期遅れを不安視する声が多かった。「機械部品、鉄類の価格上昇が販売単価を圧迫している」「部品、部材不足の影響を受け、仕入先より納期回答が出来ないというケースもある」「この材料等の危機的不足から回復するには1年以上要するという仕入先もある」とのコメントが寄せられた。今後について

は「部品、部材不足であるが、受注は活発になってきている。このままコロナ感染が低いレベルで抑えられれば、4月以降更に良くなるのではと期待している」「コロナ次第だが、改善すると思われる」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…総じて半導体不足による影響を指摘する声が多かった。「半導体不足による新車の生産減により、中古車や部品の市場も悪化した」「半導体不足は、コロナ感染で休業している工場が多い事が要因である」とのコメントが寄せられた。今後については「半導体及び新車の生産が回復しつつある。自動車市場は正常化するであろう」「新年1月より、3%程値上がりする商品（部品）もある」とのコメントが寄せられた。

『建築材料』…「神奈川県や東京都を中心に分譲住宅は活況である」「ウッドショックはまだ続く」とのコメントが寄せられた。

『紙』…総じて変異株に対する不安の声が多かった。「先行きがどうなるか全く分からない為、慎重にならざるを得ない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「変異株オミクロンの感染拡大により、景気回復が鈍化しないか懸念される。本来であれば、各種イベントの再開等で人流増加が見込まれ、弊社主要取引先の紙業界も売上増加を期待していたが、まだまだ厳しい見込みである」「石油製品の仕入が高くなる予想である。少しずつではあるが、イベント等も開催され、紙製品の需要も回復していくことを期待する」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…総じて古紙の減少を指摘する声が多かった。「テレワークが進み、オフィス書類（古紙）の排出が減少。今後、古紙業界の扱う品目が変わるのではないか」「テレワーク、デジタル化、ペーパーレスによる製紙原料（古紙）の減少で、先行き不安である」「業務用トイレ紙の生産は減少している。産業古紙の減少で前向きに考えにくい状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「事業形態を早急に変化させる取り組みをしていく必要がある」「産業古紙の減少と輸出入の調整が難しい状況が続くと思われる」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…総じて円安、原油高を不安視する声が多かった。「鉄、非鉄スクラップはコロナ後のインフラ整備の為、中国をはじめ各国が製品生産増となり、品不足になった。ここにきて円安、原油高、オミクロン株の発生等、不安要素が集中している」「コロナの影響が続き、売上はまだまだ厳しい」「貴金属リサイクル事業では引き続き相場を注視していく必要がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「2022年上半期は円安、原油高、オミクロン株の行方で落ち込み予想」「コロナの終息を待つしかない」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』…総じて原材料不足と値上げを指摘する声が多かった。「繁忙期を迎え、受注は好調である」「原材料の値上げに伴い生産面では非常に厳しい状況である」「製紙用薬品の値上げが続いている」「品種によっては品不足もあり、当分の間は（品不足が）続く見込みである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「仕入価格の変動が早く、調整が難しい」「コロナ、原油高、米中問題、コンテナ輸送など様々な問題が積み重なって非常に厳しい局面である」「値上げが相次ぎ、本当に困っている」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「業況は上向きだが、コロナ禍の需要低迷による過剰在庫が継続している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「需要が上向いており、コロナ第6波が来なければ良好だろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「田子の浦港付近にショッピングセンター等の集客施設を充実させて、コロナ後の観光面の発展を期待したい」「国の施策に工夫無し。地方にもっと投資してほしい。50年かけて富士駅前改修が始まりましたが、少しは活性化するのではと期待」「本業とは全く違う業界で進む事も有りなのかと模索している。今のままでは継続する事すら大変である」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	16.0	56.0	28.0	▲12.0	上昇
売上高	40.0	32.0	28.0	12.0	下降
採算	24.0	44.0	32.0	▲8.0	横ばい

【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…総じてガソリン価格高騰に代表されるコスト増を不安視する声が多かった。「緊急事態宣言の解除により人の動き経済の動きを期待したが、まだ消費者は慎重のようである。売り上げもあまり変わらない。特に富士市は直接的なコロナの影響だけではなく半導体やサプライチェーンの影響による低迷が景気を押し下げているとの話も聞く」「コロナ第6波、相次ぐ地震など不安材料があり、見通しが立たないのが現状である。またガソリンや材料の価格高騰、人件費の上昇なども利益圧迫要因である」「茶葉の需要が低迷している。贈答用が特に低下傾向である」とのコメントが寄せられた。

『衣料品・呉服』…「生産量が減り商品が少なく、また相次ぐイベントの中止で商品需要そのものが無い」「明るい材料があまりない」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「コロナの影響で、花の生産農家が作付けを野菜類に変更するケースが多い。廃業による品物不足も顕著だ。国内の花不足をカバーしていた輸入品もストップしたため、商品が手に入らないことが多い」「国内の生産減少は止まらないので、輸入品が早く安定してくれればと期待している」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…総じて見通しはまだ不透明という声が多かった。「金属商品をはじめとする値上げラッシュ。納品先に対しては値上げできず、採算が悪化」「8月からの緊急事態宣言以来、売上が大幅にダウン。8月9月は県・市の給付金がでるが、飲食店等に卸売をしている当社においては、8月9月の売上の入金となる10月が売上ダウンで給付金の対象外であった」「半導体不足、コロナ禍の影響で年末商戦用のものが品不足となっている。18歳以下への給付金の支給により玩具業界は恩恵を受ける事を期待している」「コロナの影響で需要が低迷している中で、冠婚葬祭の縮小による規模の質素化がかなり影響している」「コロナの状況が不透明なため、需要が掴み切れていない。あらゆる物価の上昇が懸念されている為、消費者の財布の紐が固くなる傾向が見え始めている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「1月よりメーカーの値上げラッシュが続き、とりあえず売上減が予想される。12月の値上げ前の買い込みは無さそうである」「コロナ禍において通販事業を伸張させることができた。今後はコロナ後に備えて実店舗での販売強化に注力していきたい」「世の中が落ち着いて徐々にでも意識が華やいできれば良いのだが、今のところ見通しがつかないので期待は出来ない」「アフターコロナで、人々の価値観がどうなるか」「オミクロン株の状態と世間一般の動向により、景況は変わるのではないかと思うので、見通しは不明。良くなる事を期待」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「昨年と引き続き白物家電が伸びている。家庭での食事機会の増加により電子レンジ、また空気を清潔に保つ空気清浄機や換気扇が過去最高である」「白物家電機器においては半導体・部品・原材料の供給不足及び原油価格高騰によるリスクが懸念されている」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「一般自転車の供給は回復しつつあるが、スポーツ自転車の供給不足は変わらない」「メーカーですら見通しがたたない状態である。」とのコメントが寄せられた。

『自動車・部品』…「感染が急拡大する東南アジアからの部品調達の遅れにより国内工場の一部で稼働停止となり、新車の納期が遅れている」とのコメントが寄せられた。

『燃料』…「仕入価格が高騰。コロナ禍で見通しが立たない」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「商店街の空き店舗の数か所で飲食店が開店したが、大きい空き店舗はシャッターが閉まったままで変化が見られない。もっと誘致をして活気が欲しい」「とりあえずコロナが落ち着きを見せる中、各種イベントも再開し始めている。富士駅前の再整備事業、ウォークブル事業など次を見据えた計画が進んでいる。市民を巻き込んだ計画の推進を会議所も一緒にさらに取り組んでいただきたい」「サイクルステーションのオープンにより e-bike の問合せが増えてきている」「中心市街地の空洞化が激しく、人も車も少ない」「富士駅前の再開を待たなくて廃業していく人たちも多いであろう。現状のままで 6 年も待てない」「商店街のイベントは 2 月のマルシェは中止。12 月ポイントカード抽選会の時に長さん小路で音楽祭を実施。吉原商店街では、唐揚げ専門店、フィットネスジム、珈琲専門店等、若い世代の新規開業があり、組合にも加入予定である。YWC（吉原若旦那クラブ）のメンバーとしても期待できる」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業況	4.8	42.9	52.4	▲47.6	上昇
売上高	14.3	33.3	52.4	▲38.1	上昇
採算	9.5	47.6	42.9	▲33.4	上昇

【サービス業】 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…総じて緩やかではあるが客足は回復傾向との声が多かった。「昨年 10～11 月は GOTO トラベル等で人流があり売上等も良かった為、昨年同期と比べるとまだ悪いが、それでも 9 月末の緊急事態宣言解除以降、客足が戻ってきている。近隣小学校のクラスター発生で、一時的に客足が減ったものの、再び客足が戻りつつあると感じている」「コロナが落ち着き、一般客、ビジネス利用客ともに新幹線利用が増えたようである。新富士駅も乗降客が増えたため、少しずつだが活気が見え始めた。当店はコロナ前を 100%とすると、目標 50%としており、現在は 70%位まで持ち直しつつある。消費者の動向は、残念ながらコンビニ等の安価な商品に目が向いているのが現状である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「昨年よりかは良いと思いたい。第 6 波も最小限の影響で収まれば良いと願う」「コロナが終息すれば、新幹線の利用者が増え、安定した営業に向かうと思われる」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…総じて原油価格高騰への不安の声が多かった。「原油価格の値上げが激しい為、この先が非常に不安である」「軽油代金の高騰、尿素水の不足と値上げで大変な状況が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「コロナが終息すれば経済活動が活発となり、景況もだいぶ良くなると思う」「尿素水の入手が出来ないと、トラックを動かす事が出来ず、非常に不安である」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「コロナ終息が待ち遠しい。新政権の経済対策を期待したい」「景気は上向きの雰囲気があり、問合せが若干増えている。事業用の土地の動きがみられるが、製造業は状況が良くない。ただ、製造業の設備投資に関連する事業者の動きはある」とのコメントが寄せられた。

『求人広告・広告デザイン』…総じて求人需要が減少していくという声が多かった。「新型コロナウイルスによる先行き不透明感が拭えず、求人需要動向が不安定な状況」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「新型コロナウイルスによる先行き不透明感が拭えず、求人需要動向が不安定な状況」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…総じて過当競争と人材不足に陥っているという声が多かった。「経営の落ち込みは急激であったが、回復は緩やかであり、経営者が心のゆとりを持ってない状況で

ある」「土業は過当競争である」「コロナの影響により飲食、宿泊業等、経営難となっており、廃業する者も増えている。また、ウッドショックをはじめ資材の価格高騰のより受注難が重なり業績が低迷している」「顧問先の経営者の高齢化に伴い、死亡、廃業等が重なり、結果として我々サービス業の業績も悪化傾向である」「人材不足が非常に顕著になってきている。業界全体で何とかしないとイケない課題」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「コロナに係る補助金等の申請は一段落したが、未だに未支給である補助金・給付金等が目立ち、資金繰りでの事業維持が厳しい状況が継続している。3月末にて事業閉鎖せざるを得ない事業所が数件見受けられる」「土業間の過当競争は続くであろう」「コロナの影響がたとえ終息したとしても以前のような状況には戻らない。リモートワークがこれだけ普及しデジタル化が増え進んでくると、新たなビジネスモデルが検討される様になり、対応できないところは市場より撤退せざるを得なくなる」「非常に厳しい。仕事・売上を増やすことは可能であるが、人材の問題でなかなか大幅に売上を増やせない状況は続きそうである」とのコメントが寄せられた。

『旅館・ホテル・旅行業』…総じてコロナの早期終息を求める声が多かった。「今期実績はコロナ以前（令和2年1月2月）を除けば多少増加している」「緊急事態宣言が解除され、個人の旅行が少し動いてきたが、利益に結びつけるにはまだまだである。団体の旅行がほとんど動かない状態のため、関連するバス会社、ドライブインも同様に厳しい」「新型コロナウイルスの影響で需要の低迷が非常に厳しい。バス業界各社で規模を縮小している。通常に戻った時にバス不足が懸念される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて「コロナさえ終息すれば団体旅行客などの希望は増える」「第6波が非常に心配している。2月、3月に決まりかけている団体旅行の申し込みも、感染状況によっては再びキャンセルされるかもしれない」とのコメントが寄せられた。

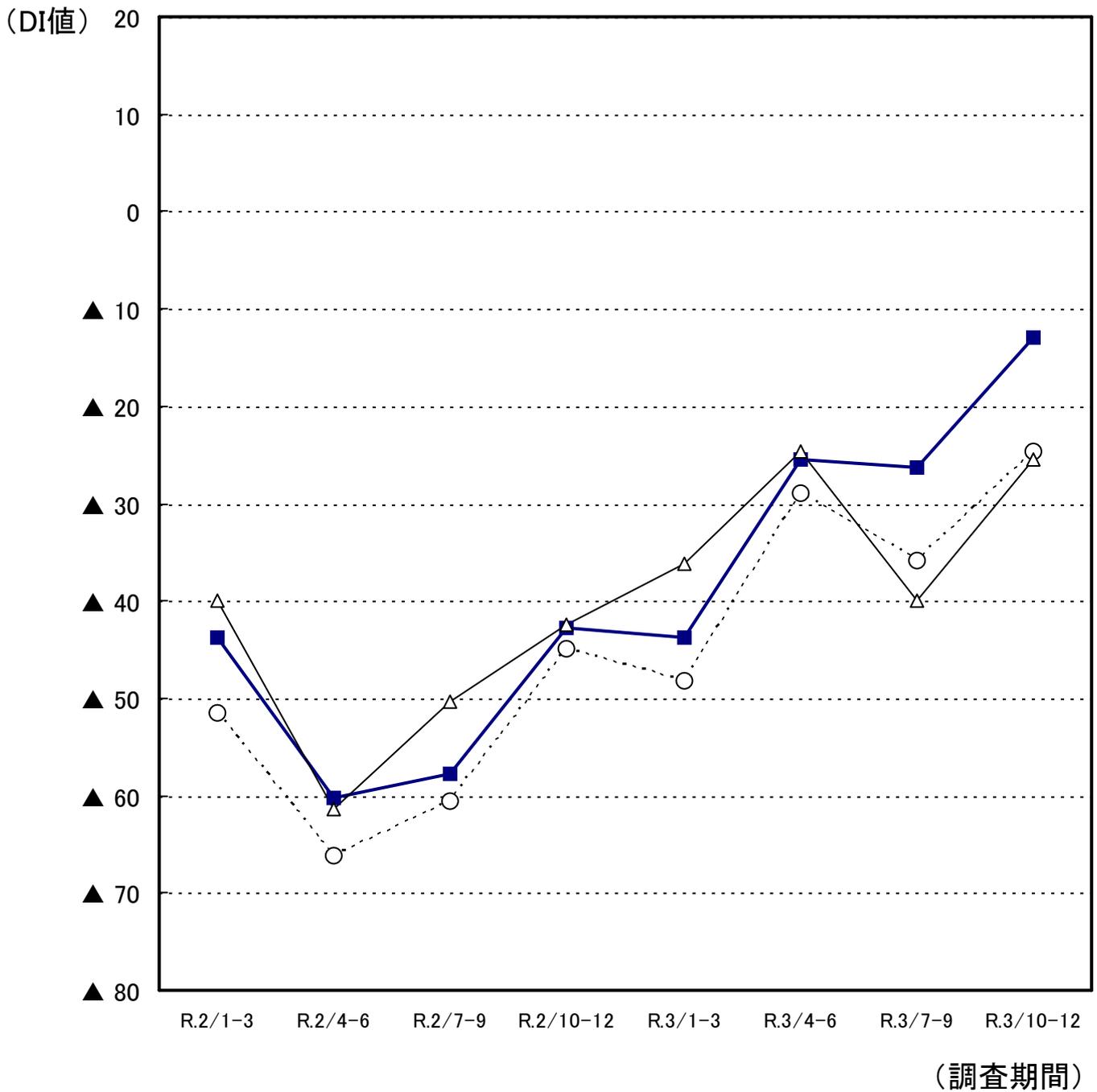
『冠婚葬祭』…「冠婚葬祭業としては参列規模縮小により売上減少が顕著であり、経営体制の変化が求められている」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「2月6日の軽トラ市、例年になく出店数も多いので、ぜひ成功させたい」「根方街道沿いにおける更地が目立つ」「（税理士）顧客の相談内容は、経営意欲、内面的な心情が多く、特に高齢な方は後継者もなく、暗い話題となってしまおう」「富士市内にはまだ外食そのものに感染の不安を抱く方もいる。安心して外食出来るように、引き続き感染症対策を徹底したいと思っている」「工業用地の需要があるが、工業地域の売り物件が少ない」「空き家の中で少しではあるが、新しい入居がある。付加価値を与え、消費者が買いやすい状況を模索し、販売につなげたい」「国は金をばら撒くのではなく、仕事で支援をしてほしい。（今ではほとんど無くなってしまった）昔のように公的機関の視察旅行を増やしていただきたい。公的機関が動いてくれば、不随する団体（例：消防団、町内会等）が動けるようになる。昔は、公的な団体によって経済が回る仕組みがあったのだが、今はそれが無く非常に厳しい」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	17.2	44.8	37.9	▲20.7	横ばい
売上高	31.0	37.9	31.0	0.0	上昇
採算	24.1	44.8	31.0	▲6.9	横ばい

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 △ 採算

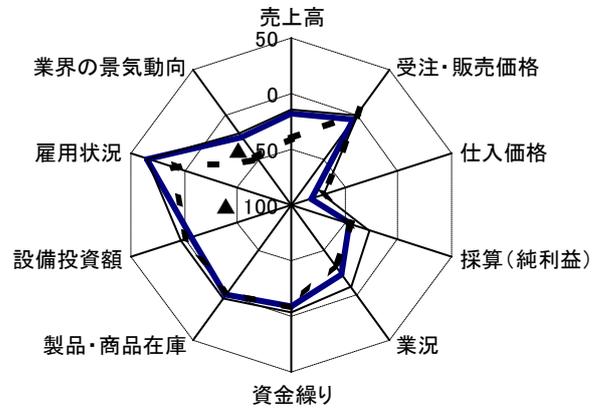


レーダーチャート

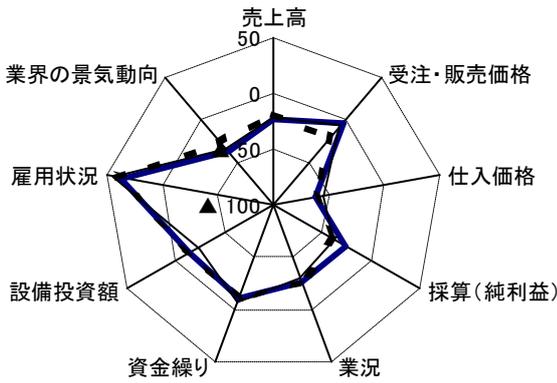
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

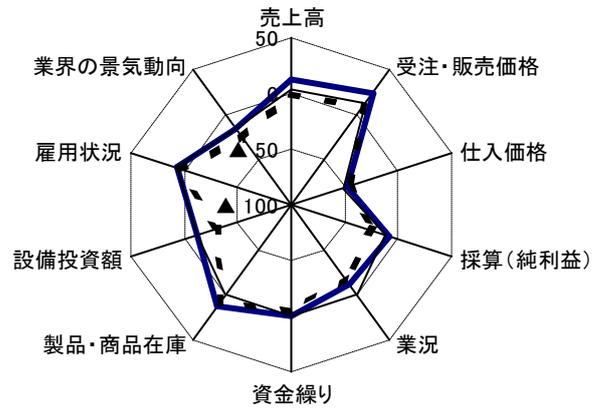
【製造業】



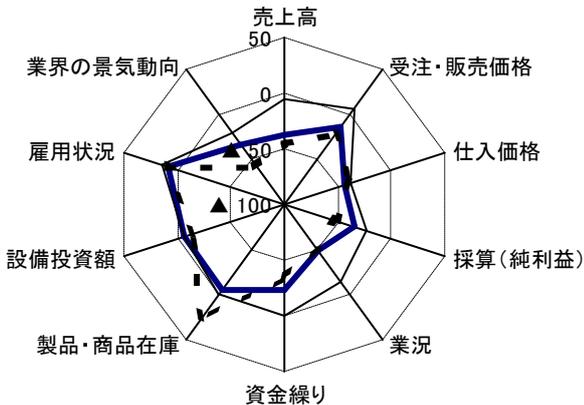
【建設業】



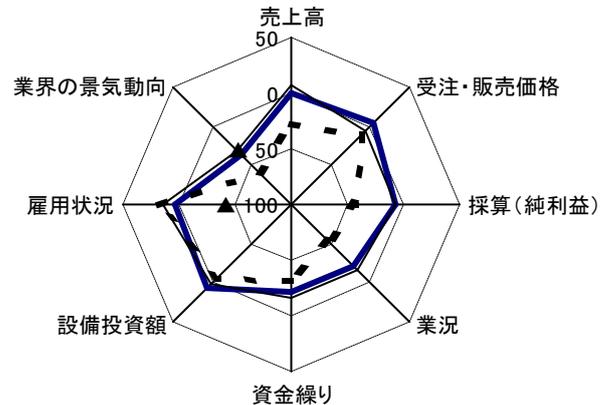
【卸売業】



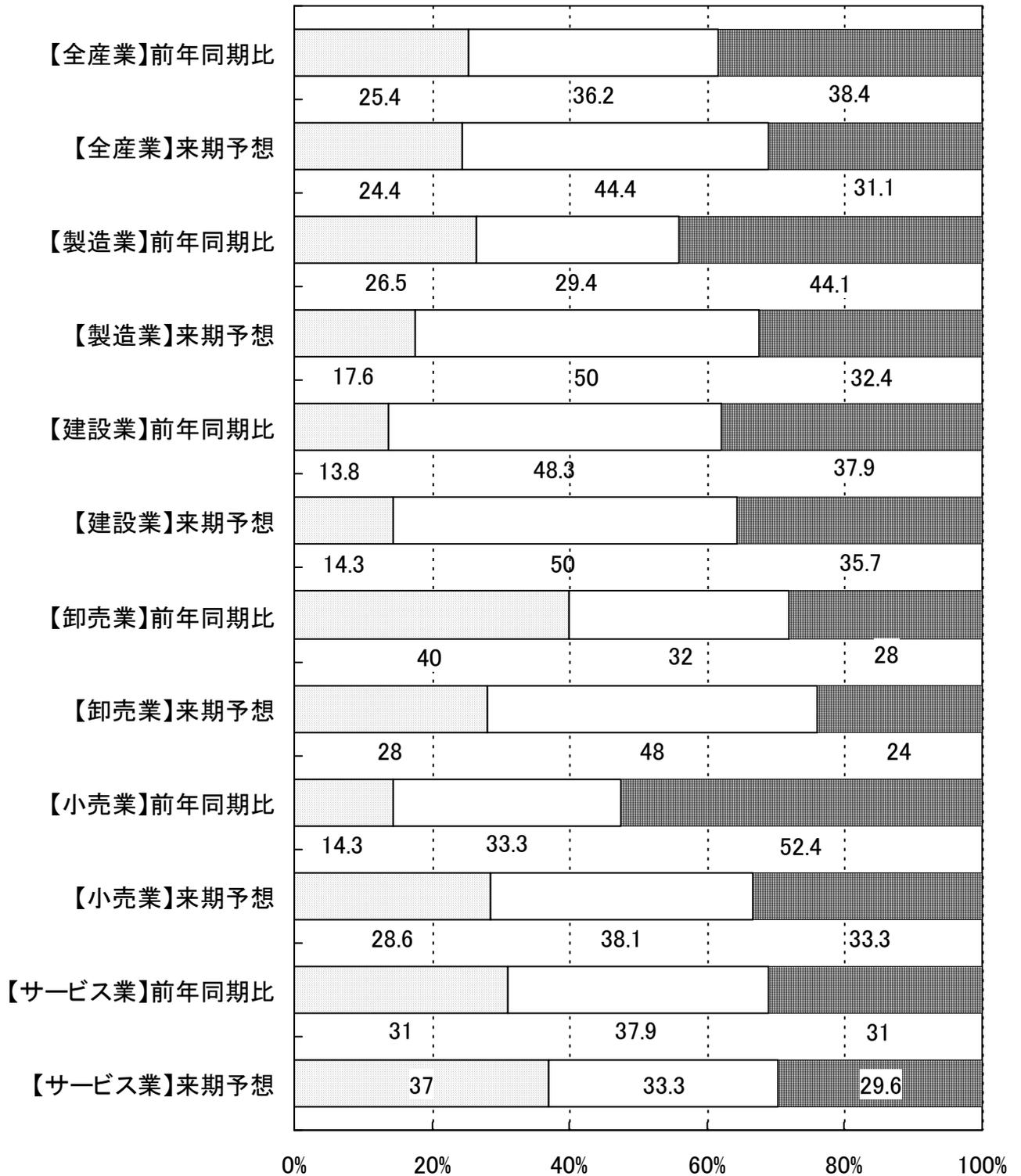
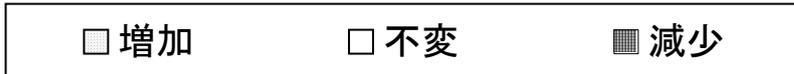
【小売業】



【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産 業 別	上 位 回 答 項 目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 人材不足／設備老朽化</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 過当競争</p> <p>その他 売上減に伴う利益減／人員不足</p>
卸売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p>
サービス業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p>

最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2021年12月13日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（概況） 県内の景気は、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響が徐々に和らぐもとで、持ち直している。この間、21/12月短観をみると、企業の業況感是非製造業を中心に改善している。最終需要の動向をみると、公共投資は高水準で推移している。設備投資は持ち直している。住宅投資は幾分持ち直している。個人消費は、供給制約などの影響を受けている。一部品目を除き、持ち直している。輸出は高水準で推移している。こうした下で、企業の生産は、持ち直しの兆しがみられている。雇用・所得環境をみると、労働需給は改善傾向にあるが、全体としては引き続き厳しい状態にある。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を下回っている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 財消費は堅調ながら、一部品目における供給制約の影響や、飲食・宿泊等のサービス消費における下押し圧力の強まりから、持ち直しが一服している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。乗用車新車登録台数・販売台数は、減少している。コンビニエンスストア売上高は、持ち直している。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、持ち直している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（公共工事請負金額前年比：21/10月35.7%⇒11月▲12.0%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 持ち直している。
（短観・設備投資額：20年度計画▲10.8%⇒21年度計画10.5%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 幾分持ち直している。
（新設住宅着工戸数前年比：21/9月▲7.4%⇒21/10月25.2%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（輸出額前年比：21/9月▲2.0%⇒10月+1.6%〈速報値〉）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 持ち直しの兆しがみられている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：21/8月▲0.1%→9月▲8.8%<速報値>)

自動車・同部品は、持ち直しの兆しがみられている。二輪車・同部品は弱含んでいる。食料品は、弱めの動きとなっているほか、電気機械は、減少している。化学は、弱めの動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は、増加している。紙・パルプは、一部に弱さがあるものの、持ち直しており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給：改善傾向にある。(→)

雇用者所得：悪化している。(→)

(有効求人倍率 季節調整値：21/9月1.21倍→21年10月1.16倍)

(3) 物 価 前年を下回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比21/9月▲0.7%→10月▲0.5%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 総じて落ち着いている。

(21/11月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(19件<前年比：▲18.7%>)
負債総額(11億円<同：▲28.1%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：21/9月末+4.0%→21/10月末+3.6%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：21/9月末▲1.3%→21/10月末▲1.8%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：21/9月1.396%→21/10月1.394%)

以 上